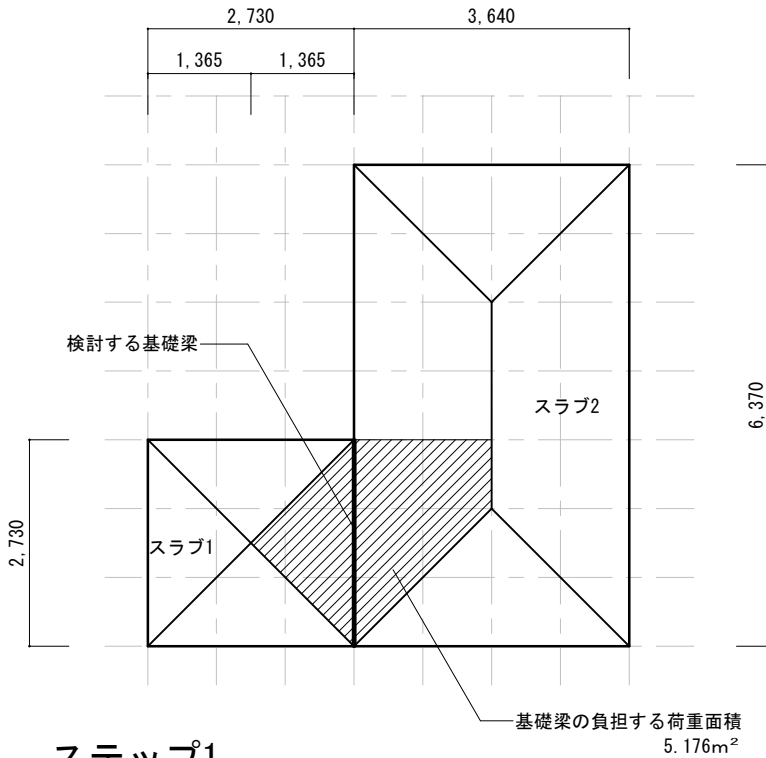


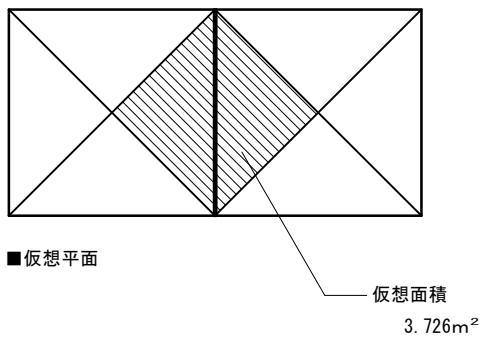
検討する内部基礎梁の両サイドのスラブの長さが異なる場合の、 検討する基礎梁の便宜上の長さ設定について

2014. 1. 30



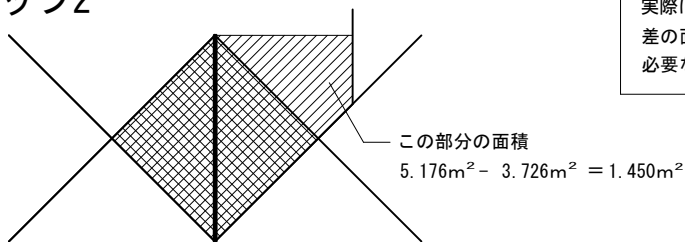
たとえば、このような状況の場合、
検討する基礎梁の長さを2730として入力すると、過小評価になってしまう。
また、6370として入力すると、過大評価になってしまう。

ステップ1



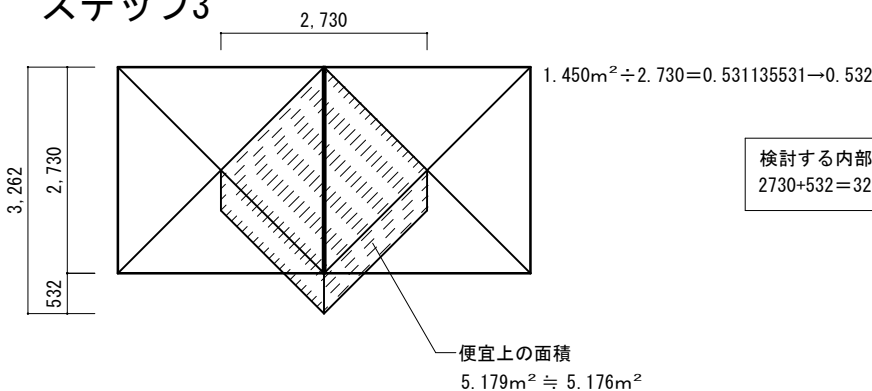
GF2では、検討する内部基礎梁の両サイドに
同じ面積のスラブが接していると仮定して計算している

ステップ2



実際に負担している面積と、仮想面積の差を計算。
差の面積を幅で割ると便宜上の基礎梁の長さに
必要な長さが求められる。

ステップ3



検討する内部基礎梁の便宜上の長さは、
 $2730 + 532 = 3262$ とすればOK